

平成26年度

第7回大分県教育委員会 会議録

日 時 平成26年7月8日(火)
開会14時05分 閉会15時17分

場 所 教育委員室

平成26年度
第7回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 報 告

- ①平成26年度大分県学力定着状況調査の結果について（速報）
- ②全国学力・学習状況調査の結果公表の同意に係る市町村の回答状況について
- ③「韓国平和の旅」及び「北朝鮮への渡航」について
- ④重要文化財の所在確認調査について

(2) 協 議

- ①別府地域及び玖珠地域新設高校の校名候補について

(3) その他

【内 容】

1 出席者

委 員	委員長	松 田 順 子
	委員長職務代理者	林 浩 昭
	委員	麻 生 益 直
	委員	岩 崎 哲 朗
	委員	首 藤 照 美
	欠席委員	野 中 信 孝
事務局	理事兼教育次長	河 野 盛 次
	教育次長	落 合 弘
	教育次長	大 城 久 武
	教育改革・企画課長	佐 野 壽 則
	教育人事課長	藤 本 哲 弘
	教育財務課財務企画監	牧 敏 弘
	福利課長	大 石 尚 志
	義務教育課長	後 藤 榮 一
	生徒指導推進室長	江 藤 義
	特別支援教育課長	後 藤 みゆき
	高校教育課長	高 畑 一 郎
	社会教育課長	曾根崎 靖
	人権・同和教育課人権教育推進班主幹（総括）	永 井 弘
	文化課長	山 口 博 文
	体育保健課長	蓑 田 智 通
	別府地域新設高校開校準備室長	辛 島 信 昭
	玖珠地域新設高校開校準備室長	近 藤 宣 彦
教育改革・企画課主幹	勝 尾 裕 美	
教育改革・企画課主査	石 丸 一 輝	

2 傍聴人

16 名

開会・点呼

(松田委員長)

それでは、委員の出席確認をいたします。
本日は、野中教育長が欠席です。

ただいまから平成26年度 第7回教育委員会会議を開きます。

署名委員指名

(松田委員長)

本日の会議録の署名委員でございますが、林職務代理者をお願いしたいと思います。

会期の決定

(松田委員長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりであります。
会議の終了は15時15分を予定しています。
よろしく申し上げます。

議 事

(松田委員長)

それでは報告に移ります。
報告の申し出が4件ございます。

【報 告】

- ①平成26年度大分県学力定着状況調査の結果について（速報）

(松田委員長)

報告第1号「平成26年度大分県学力定着状況調査の結果について」報告をしてください。

(後藤義務教育課長)

本年4月15日(火)に実施いたしました本県学力定着状況調査結果の第一報が届きましたので、ご報告いたします。

本調査の目的は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析して、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証サイクルを確立すること、並びに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることにあります。

調査の対象学年は、小学校5年生、中学校2年生です。

調査対象の教科は、小5は、国語、算数、理科の3教科、中2は、国語、数学、理科、英語の4教科です。昨年度から、全国学力・学習状況調査にあわせて「知識」と「活用」をそれぞれの教科で問うようにいたしました。

今年度の調査では、市町村立の小中学校においても、初めて、全ての教科で、偏差値50を超えることができました。

また、資料1ページ「結果の概要」の右の方にございますけれども、全ての教科で偏差値50を超えた学校は、小学校275校中133校です。前年度が80校でしたので、53校のプラスとなります。中学校は127校中38校が全ての教科で偏差値50を超えました。前年度が32校でしたので、プラスの6校となります。

続きましてその下、市町村ごとの結果についてご覧ください。なお、市町村につきまして、姫島村の小中学校、九重町の中学校につきましては、各1校ということで、市町村の値が即学校の値となりますので、求めにより、公表しておりません。

小学校では、姫島村を除く、17市町中14の市町が、全ての教科で偏差値50を超えております。前年度が9市町でしたので、5市町の増となっております。中学校では、姫島村、九重町を除く16市町中5市町が全ての教科で偏差値50を超えております。前年度が3市町でしたので、2市町の増となっております。

なお、一覧表をご覧になって、お気づきのことと存じますが、英語につきましては、「知識」「活用」とも16市町中8市町が偏差値50を超えられませんでした。前年度、偏差値50を超えられなかった市町の数が「知識」13、「活用」11でしたので、改善のあとは見られます。しかし、依然、中学校英語の強化が求められる状況でございます。このことにつきましては、後ほど、改めて触れます。

では、今年度の状況に至る経緯を振り返ってみたいと思います。

まず、先に3ページをお開きください。これは、過去3年間の学力調

査で、それぞれの市町村がいくつの教科で偏差値50を突破したのかを表しております。平成24年度をご覧ください。このときには、知識と活用を分けておりませんが、全部で教科は126あったのですが、偏差値50を突破したのは56で、突破率は44.4%でした。昨年「知識」と「活用」に分けましたが、252中147ということで、そのときの突破率が58.3%、今年が252中202ということで、80.1%の突破率ということで、この3年間、年々、全国平均（偏差値50）を超える教科が増えてきているという状況にあります。

2ページにお戻りください。平成20年度から今年度までの偏差値の推移に、これまでの主な施策を重ねたものです。なお、平成25年度と今年度につきましては、「知識」の偏差値をもとに作成しております。

こうしてみますと、改善状況にかかる大きなエポックは、3つの対策であったのかと考えています。

1つ目は、平成21年度に始め、22年度に全市町村が参加した「市町村学力向上戦略支援事業」です。各市町村教育委員会が、客観的数値目標を含む、学力向上推進計画を策定して、地域総ぐるみでの学力向上の取組みが始まりました。

2つ目は、平成22年10月に始めました「低学力の子どもにやさしい3つの授業改善」、いわゆる「一時間完結型授業」「板書の構造化、板書とノートの一体化」「習熟の程度に応じた指導の強化」であります。これにより、全ての教員が、低学力層の子どものつまずきの原因を自ら授業に求め、自らの責任による授業改善を進めてまいりました。それは、平成25年度の「一人一実践、授業改善キャンペーン」へと引き継がれています。

3つ目は、平成24年11月にスタートした「芯の通った学校組織」の構築です。これにより、各学校において学力向上対策が重点化、組織化され、校長のリーダーシップの下、短期のPDCAの取組が実現され、学力向上の取組が充実してきたことにあると思います。

以上、今回の学力調査の結果は、市町村、学校、各教員がそれぞれの使命を明確にして、責任ある取組を進めてきたことにあると考えます。

最後に今後の課題を4点申し上げます。

1点目は、中学校の英語のことでございます。グローバル人材育成と関連付けた英語の対策強化が必要かと思えます。

2点目は、全ての子どもたちが夢に挑戦し自己実現できるよう、子どもたちの意欲に働きかけ、学びに向かう力を高める対策を講じることだと思えます。

3点目は、市町村教育委員会や学校に対する情報提供等、指導助言の強化です。大いに本県調査の結果をご活用いただけるよう公表方法の改善を図ってまいりたいと思えます。

4点目は、学校や教員に対する本調査の趣旨の徹底と実施上の問題点

の改善を図ることでございます。

以上でございます。

(松田委員長)

何か質問・ご意見等はありませんか。

(林職務代理者)

今回の結果は、今までの成果が出てきたということだと思いますが、全市町村に配置されている学力向上支援教員のお互いの交流、市町村を越えた授業のやりとりといったものはあるのでしょうか。と言いますのは、まだ少し市町村間でバラつきがあるように見えるのです。全県下で同じような取組ができるということが大事だと思います。

(後藤義務教育課長)

当初は、学力向上支援教員は市町村独自の課題解決のためにご活用くださいということで配置しました。しかし、ご指摘のように市町村間でバラつきがあるということで、学力向上支援教員協議会で全体を集めて実践の取組の交流をしたり、年5回の公開日には他の市町村にもお伝えして、市町村の垣根を越えて学ぶ機会をもてるようなシステムにしています。そのようなことをもっと活発にしていくことが、本県学力の向上につながるのではないかと思います。

(麻生委員)

これだけ成果が上がったということは大変喜ばしいことでもありますし、また、そのことを先生方に大いに伝えることも大事なことだと思います。なおかつ、それが持続しなけれなりません。先ほど4つの課題が挙げられていました。4番目に問題点の改善とありましたが、問題点とはどのようなことですか。

(後藤義務教育課長)

今回、残念ながら由布市の小学校で、不正事件がございまして、そのようなことも含めまして、もっときちんと適正に実施できるように工夫改善することはできないか、ということです。調査そのものに問題があるということではなく、実施上、もっと我々が配慮をいたしまして、受験したにも関わらず、集計から除算しなければならないようなことがないようにしっかり実施責任を果たしていきたいということです。

(麻生委員)

数値が上がれば上がるほど、そのようなシビアな問題が現場サイドに

は出てきます。調査の本来の趣旨をきちんと理解して学力向上につなげるよう、学校に徹底してほしいと思います。

(後藤義務教育課長)

そのことにつきましては、10月7日に校長、教務主任を対象に開催予定の第1回リレー式授業改善協議会におきまして、今回の結果も含めて、この調査は子どもたちの学力の向上に資するために大切なデータをつくるためにやっていることであり、単に競争のためとか、そういうことではないことをしっかりと落とし込んで、これから半年間、子どもたちのためになるような授業改善をしてほしいということを徹底したいと思っています。

(岩崎委員)

今回の結果を見て、本当にうれしく思っています。九重町が一番成績がよかったのではないかと思います。これだけ大きな成果が上がっていることについて、どのような取り組みをして、このような結果が得られたのか、一度きちんと分析していただいて、他の市町村に伝え、良い取組については、県内あまねく取り組めるようにすることが大事だと思います。特に急激に改善したところ、ずっと安定してよいところの取組を他の市町村に伝えていく必要があると思います。

(松田委員長)

好事例について徹底していただきたいということですね。

(後藤義務教育課長)

九重町のことで、1点だけご報告させていただきたいことがございます。2年前の夏休みに町議会の文教委員会の議員の方々、教育委員さん方、そして全教員がこぞって集まりまして、これからの九重の教育の在り方についてみんなで論じ合い、学校がすること・家庭にしてもらうことを話し合っ町総ぐるみで取り組んだ、そのようなことでだんだん子どもたちに力を付ける環境が整ったのではないかとということをご報告いたしますが、今求められましたように、まだまだ他にもあるかもしれませんので、そのようなことを九重町教育委員会や学校と一緒に分析させていただいて、その良い取組は全体に広がるように努めてまいります。

(松田委員長)

学校だけでなく、家庭での学力向上、保護者の対応等からも良い結果が出たということですね。

(後藤義務教育課長)

はい、そうです。

(首藤委員)

先ほど後藤義務教育課長の説明にもありましたが、英語の結果についてお尋ねします。高校入試の状況を見ましても、この調査結果を見ましても、非常に重篤な課題を抱えているようです。今後、早急に取り組まなければならないと考えていることをお聞かせください。

(後藤義務教育課長)

中学校英語のことにつきましては、昨年も非常に問題視しておりました。それまで学力向上対策は、小学校と中学校を同じようにしていましたが、今年度から小学校と中学校の学力向上対策支援事業を分けました。特に、中学校の英語・数学・国語の3教科において、各郡市の教科部会の運営をする先生方を対象に、まず、授業の研究会の在り方等の改善を組織的にやろうとしています。また、次世代の教科のリーダーとなる方々にもお集まりいただき、今、求められている授業を実践していただき、その実践をもとに、実践事例集、評価問題集を作ってください、それを来年度全体に普及しながら中学校英語等の授業改善を県全体で行う取組を進めているところです。

(松田委員長)

学校で行っている授業とテストの結果との関連性は考えられませんか。

(後藤義務教育課長)

中学校英語について申し上げますと、前の学習指導要領で言葉によるコミュニケーションが日本人は苦手だということで、そこを重視してきたのですが、その結果、書くことや読むこと等が少しおろそかになっていたということがございます。現行の学習指導要領では、話す・聞く・読む・書くの4つの領域をバランスよくやりましょうということで、授業改善を再構築しています。今、過渡期でありまして、学習指導要領の趣旨をしっかりと生かしていきたいと思っております。

(松田委員長)

次世代のグローバル社会を担う人材を育成するためにも、中学生の英語力の育成をお願いします。

②全国学力・学習状況調査の結果公表の同意に係る市町村の回答状況について

(松田委員長)

次に、報告第2号「全国学力・学習状況調査の結果公表の同意に係る市町村の回答状況について」報告をしてください。

(後藤義務教育課長)

全国学力・学習状況調査の結果の公表に係る同意をいただいた旨のご報告をします。資料2ページに、前回、第6回教育委員会会議においてご承認いただきました内容を記載しておりますので、それを同意状況の一覧と併せてご覧いただきたいと思います。第6回教育委員会会議においてご承認いただきました調査結果の公表につきまして、本県の公表に同意いただけるかどうか、6月中に市町村教育委員会に照会をかけました。その回答状況をご報告いたします。

市町村の意向をお伺いしたのは、次の3点です。

- 1 市町村結果の公表について同意いただけるかどうか。
- 2 公表基準を満たした学校の学校名等の公表について同意いただけるかどうか。

公表基準といいますのは、平成25年度、26年度の両年度において、全ての調査対象の教科で全国平均正答率を上回った学校でございます。

- 3 公表基準を満たした極小規模校の学校名等の公表について同意いただけるかどうか。

以上の3点です。

結果は、一覧表のとおりでございます。

1点目の市町村の結果につきましては、17市町に結果公表の同意をいただきました。なお、九重町につきましては、中学校が1校ということで、小学校のみの同意でございます。

2点目の公表基準を満たした学校名等の公表につきましては、九重町の中学校を除き、全ての市町村の同意が得られました。なお、姫島村につきましては、数値の公表となる市町村結果が、即、姫島小・中学校の結果となることから、市町村の結果公表についての同意は得られていませんが、各学校が公表基準を満たした場合には、学校の取組について公表に同意いただけるという前向きなご回答でございます。

3点目の公表基準を満たした極小規模校の学校名等の公表につきましては、豊後高田市、杵築市、佐伯市、豊後大野市、日田市の5つの市から公表の希望がございました。極小規模校につきましては、これまで、個人情報保護の観点から県調査におきましては、公表を控えてまいりましたが、市町村の積極的な公表によって、極小規模校の好事例につきましても県内に広げることが可能となります。

今後は、市町村教育委員会の皆様や小中学校の先生方との連携を密にし、ホームページを整えてまいります。

例年、8月に文部科学省より（全国学力・学習状況調査）結果の提供

がありますので、8月中に「本県の結果」、9月を目処に「市町村の結果」、10月を目処に「小・中学校の結果」と順次公表する予定でございます。

以上でございます。

(松田委員長)

何か質問・ご意見等はありませんか。

(麻生委員)

資料1ページの「極小規模校」の欄が空欄となっている市町村は、極小規模校がないということでしょうか。

(後藤義務教育課長)

ここは表現がとても難しかったのですが、そもそも極小規模校がないという市町もございますし、希望しませんというところもあったのですが、完全に5市に同意いただけただけという結果だけをご報告したいと思ひまして、このような表になっております。

(麻生委員)

はい、分かりました。

(松田委員長)

すばらしい回答状況だと思います。私ども県教育委員会が決定した全国学力・学習状況調査の公表の意義やそのあり方について、18市町村すべての教育委員会にご賛同いただいたことは、まことに喜ばしいことです。市町村教育委員会の決定に深く感謝したいと思います。

当面は、市町村や学校の皆様と連携を密にし、好事例を取材して、多くの学校が参考にできるよう、県教育委員会のホームページの充実に努めてください。

各学校が共有した好事例を参考に、家庭や地域の皆さんと一体となった学力向上が図られるよう、市町村教育委員会や事務局の皆とともに厚い支援を続けていきたいと考えます。

③「韓国平和の旅」及び「北朝鮮への渡航」について

(松田委員長)

次に、報告第3号「「韓国平和の旅」及び「北朝鮮への渡航」について」報告をしてください。

(藤本教育人事課長)

「韓国平和の旅」及び「北朝鮮への渡航」についてご報告いたします。
資料1 ページが、5月8日及び9日の新聞各紙に掲載されました「親子で学ぶ韓国平和の旅」への参加者募集広告、また、2 ページが教職員の北朝鮮への海外旅行の状況です。

「韓国平和の旅」は、大分県教職員組合が県内の中学生と保護者を対象に参加者を募集し、7月25日（金）～27日（日）にかけて実施予定です。

この広告を見た県民から、大分県での学校では偏った教育が行われているのではないかと懸念の声をいただいたことから、大分県教職員組合に対し、学校や教職員が県民の信頼を損なうことになれば、教育活動の低下を招くことになるので、本活動に当たってはこの点を考慮して対応するよう、6月20日（月）に口頭で要請したところです。

また、同様に教職員が北朝鮮に渡航する年もあったことから、北朝鮮については、現在渡航情報として外務省から『渡航自粛』が発出されていること、また、国家公務員については、原則渡航禁止となっていること、こうした現下の情勢に鑑み、北朝鮮への渡航を自粛するよう、あわせて口頭で要請したところです。

大分県教職員組合からは、韓国平和の旅については、県教育委員会の懸念することは理解した旨の、また、北朝鮮への渡航については、これまでの要請を受け、北朝鮮への旅行は予定していない旨の回答があったところです。

なお、本件につきましては、去る6月27日に開催されました、県議会文教警察委員会でも報告したところです。

以上でございます。

(松田委員長)

何か質問・ご意見等はありませんか。

(岩崎委員)

韓国平和の旅、また北朝鮮への渡航について、過去、いつ頃から行われていますか。

(藤本教育人事課長)

韓国平和の旅につきましては、今年で12回目となります。平成14年からです。平成25年はSARS問題で中止し、別途新興国での（旅行を）募集をしています。

北朝鮮につきましては、平成24年の実施が18回目ということでした。

(岩崎委員)

過去の韓国平和の旅においても、今回と同じように、「韓国の日本軍慰安婦歴史館」でありますとか、「反日運動家らの監獄として使用された西大門刑務所跡」などを見学するといった、特定の場所を訪れることをして、これを「平和の旅」として、募集をしてきていたということですか。

(藤本教育人事課長)

概ねこういった内容で募集していると思います。

(岩崎委員)

今回、県議会で問題にされたということですね。過去は、これまで問題にされてこなかったということですか。

(藤本教育人事課長)

平成21年第3回定例県議会での麻生県議の一般質問等で、ご指摘をいただいていた。また、広告を見た県民の方からは、どうなのかといった声はいただいていた。

(岩崎委員)

県教委はどういった内容を口頭要請したのですか。

(藤本教育人事課長)

学校や教職員が、県民の信頼を損なうことになれば、教育活動の低下を招くことになるので、本活動にあたっては、この点を考慮して対応するよう要請したものです。

(岩崎委員)

これまでは、一度も要請したことがないのですか。

(藤本教育人事課長)

韓国平和の旅については、要請していません。北朝鮮については、渡航自粛という情報がありましたので、要請しました。なお、北朝鮮について、外務省の危険情報では、本年7月4日から「渡航の是非検討」に変更されております。

(岩崎委員)

今回、自粛を要請した理由は何ですか。

(藤本教育人事課長)

議会での指摘もあり、教育現場で偏った教育がされているのではない

かということもあったためです。

(岩崎委員)

県教委としては、偏った教育がなされていると判断したということですか。

(藤本教育人事課長)

県民の方から見れば、そういったことも考えられるということで、教育活動の低下を招くことも考えられることから要請したものです。

(松田委員長)

県教委としての考え、見解はどうですか。

(藤本教育人事課長)

学校の教育活動の中で、こういったことが行われれば問題になりえますが、教育活動外で行われていますので、十分注意をしてくださいということです。

(岩崎委員)

北朝鮮渡航の毎年4名は、同じ方ですか。

(藤本教育人事課長)

違う方です。

(岩崎委員)

韓国平和の旅には、どの程度の方が参加しているかわかりますか。

(藤本教育人事課長)

昨年は23組46名、一昨年は27組54名、その前が14組28人でした。

(岩崎委員)

今回、口頭で要請したということですが、実施すると県教組は言うるんですね。

(藤本教育人事課長)

はい。

(岩崎委員)

来年以降どうするかは聞いていないですか。

(藤本教育人事課長)

はい、聞いていません。

(河野理事兼教育次長)

過去の訪問先につきましては、確認できていないこともありますから、1 2 年続けて同じ場所とは言えません。また、旅行後に報告書を書いて、平和学習の資料に使うという実態も耳にしましたことから、今回の対応としたところ です。

(麻生委員)

県教組がこういったことを行っているというのは、他県ではあるのですか。

(藤本教育人事課長)

そこまでは、確認していません。

(麻生委員)

事故がおきた場合、どこの責任になるのでしょうか。

(岩崎委員)

主催者である、大分県教職員組合になるのではないのでしょうか。

④重要文化財の所在確認調査について

(松田委員長)

次に、報告第 4 号「重要文化財の所在確認調査について」報告をしてください。

(山口文化課長)

先週末、文化庁が発表した国の重要文化財の所在確認調査等につきまして、大分県関係分について報告いたします。

調査については、国指定の美術工芸品 5 4 件が対象で、所在不明が 1 件ございました。所在不明の 1 件は、南北朝時代に越中の刀工により造られたとされる刀でございます。この刀の所有者とされる方は、かなり昔に亡くなられておりまして、ご家族にも聞き取りをしましたが、全く知らないということでした。

今後、文化庁は継続して確認調査を行うとともに、再発防止策として、所有者との直接連絡による確認や定期的な現物確認を行っていく計画です。

また、今回の文化庁の発表を受けまして、大分県においても県が指定した有形文化財のうち、美術工芸品261件の所在確認調査を実施したいと考えております。県指定の文化財でございますので、文化財保護審議会で、調査内容等についてご意見をお聞きしながら、調査を進めていきます。調査にあたっては、個人の財産権やプライバシーに配慮した対応が必要になります。市町村教育委員会の協力を頂きながら、2月には調査を終えたいと考えています。

以上でございます。

(松田委員長)

何か質問・ご意見等はありませんか。

(林職務代理者)

県指定文化財の所在確認調査にとりかかる時期はいつ頃ですか。

(山口文化課長)

8月6日に開催する県の文化財保護審議会の中で、委員の方々に調査内容を含めてご意見をいただきたいと思っております。その後、8月下旬から市町村と県の担当者がペアを組んで調査を始める予定です。

(林職務代理者)

美術工芸品だけでなく、石造仏等の調査も必要ではないでしょうか。

(山口文化課長)

美術工芸品は、建造物以外のものですので、石造仏も調査対象に含まれます。

(岩崎委員)

現所有者に、所有者変更等の手続きの方法をお知らせすることも必要だと思いますので、よろしく申し上げます。

(山口文化課長)

所有者の方々に、必要な手続き等を説明するとともに、文化財の管理だけでなく、活用についても理解していただきたいと考えています。

【協 議】

①別府地域及び玖珠地域新設高校の校名候補について

(松田委員長)

それでは、協議の①「別府地域及び玖珠地域新設高校の校名候補について」協議を行います。

(高畑高校教育課長)

〈説明概要〉

- ・新設高校の開校に向けてスケジュールについて説明
- ・別府地域、玖珠地域、それぞれの新設高校開校支援委員会から推薦された校名候補案3案について協議
- ・7月29日開催予定の教育委員会で校名候補を1つに絞り、9月の平成26年第3回定例県議会に条例案を上程する予定

(近藤玖珠地域新設高校開校準備室長)

〈説明概要〉

- ・平成26年6月16日第1回玖珠地域新設高校開校支援委員会の概要について説明
- ・開校支援委員会での議論の結果、「玖珠美山」、「玖珠」、「玖珠未来」の3案が校名候補案として推薦された。

(辛島別府地域新設高校開校準備室長)

〈説明概要〉

- ・平成26年6月23日第1回別府地域新設高校開校支援委員会の概要について説明
- ・開校支援委員会での議論の結果、「別府翔青」、「別府総合」、「別府希望ヶ丘」の3案が校名候補案として推薦された。

(松田委員長)

ただいま説明がありましたが、質疑・意見等のある方はお願いします。

(岩崎委員)

教育委員が開校支援委員会に参加しているので、参加した委員から意見をいただきたいと思います。

(麻生委員)

玖珠地域新設高校開校支援委員会に、オブザーバーとして出席しました。準備室長から、玖珠郡内に残る唯一の高校になること、中高連携ではないが、県下及び九州で初めてとなるコミュニティ・スクールを取り入れ、新しい学校づくりを進めたいという説明がなされ、いい雰囲気が始まりました。最終的に校名の話となり、どうやって校名候補案を決めるかという議論になりました。校名案については、これまで教育委員会で最終的な決定をしてきましたが、開校支援委員会には初めて参加しました。将来に向けて、新しい学校にふさわしい名前を挙げて欲しいという気持ちを持って参加しました。準備室長の根気強い開校支援委員会での働きかけがあり、いろいろな意見が前向きに出たように感じています。最終的には投票で決める形になりましたが、それまでの3つに絞るまでの過程がよかったと思います。両町長や両校PTA会長や同窓会長も納得したように思います。あとは、われわれがしっかり議論すればよいのではないのでしょうか。

(松田委員長)

私は、別府地域開校支援委員会に、オブザーバーとして出席しました。議長は浜田別府市長、出席者はPTA会長、学校長などの方々でした。意見を言うというより、参加者の皆さんの思いを感じたいという立場で参加しました。開校支援委員会はいい雰囲気で行われました。ただ、応募総数の多い方から決めようという話の時に、応募総数だけでは決められないという意見も出ました。前向きな意見が順調に出たので、時間もかかりませんでした。準備室長の地域の方との関わりがうまくいっていると感じました。市長が議長でうまく進行したこともあり、あまり問題は感じられませんでした。

(岩崎委員)

別府地域の校名候補案についてですが、経過を見ていると「青翔」が中心で、「翔青」が最後に急に出てきたようですが、「べっしょう」という読みで逆転したのでしょうか。

(松田委員長)

「青翔」は全国に多くあるという説明がありました。多くあるとややこしいので、「別府」が頭に付くけれども、「青翔」よりも「翔青」がいいのではないかということになりました。逆にしたらどこにもないということで、逆転したように思います。

(岩崎委員)

われわれ教育委員会は、3つの中から1つ選ぶのが役割ということで考えてよいでしょうか。例えば、「美山」をひらがなにすることなどを決めてもよいのでしょうか。

(高畑高校教育課長)

開校支援委員会で推薦された案の中から、教育委員会で1つの案に絞っていただきます。

(松田委員長)

次の教育委員会で決定するという事によろしいですか。

(高畑高校教育課長)

今日は不明な点があればご質問をいただき、次回の教育委員会でさらに協議して、決定していただきたいと思います。

(麻生委員)

次回の教育委員会で決定とのことですが、準備室長は本日だけの参加ですか。

(高畑高校教育課長)

必要に応じて出席することになるかと思います。

(麻生委員)

必要に応じてということであれば、準備室長に、新設高校に対しての思いを一言ずつお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

(近藤玖珠地域新設高校開校準備室長)

玖珠地域は、地域のための、地域とともに育つ学校を作りたいと思っていますので、それに相応しい校名をお願いしたいと思います。

(辛島別府地域新設高校開校準備室長)

別府地域も、この3案について、いろいろな角度から慎重に審議してきました。どれになっても、その校名を受け継いで学校を作っていくと考えています。

(首藤委員)

「青翔」か「翔青」かということについて、高畑高校教育課長にお伺いします。「翔青」となったときには、読みとしてはいいのでしょうか。青年が羽ばたくという意味ならば、おかしいような気がしましたので、「青翔」が多いのではないかと感じましたが、いかがでしょうか。

(高畑高校教育課長)

漢字の組み合わせで変わるのかというご質問だと思いますが、こうだという明確なものはありません。校名で、漢字の読みのおりに字面がなっていないといけないということではないと思います。ことば全体から受けるイメージとか、また、校名に関しては、固有名詞ということで、句法や文法に沿っていないなどで問題になるということはないと思います。

校名候補案は、開校支援委員会に向けて、準備室で慎重に検討しており、最後に多くの関係の方に集ってもらい、開校支援委員会で協議して3案に絞られました。その重さを受けて、自信を持って1案に絞られるものと考えています。

(麻生委員)

これまで前期・後期再編で校名候補を決めてきましたが、情報として、これまでで最もきちんとしたものが出てきていると思います。準備室長がこまめに動いていることも肌で感じていますし、われわれも勉強してきました。高校再編の最後として、きちんといいいものができると思います。

(松田委員長)

私も麻生委員も、それぞれの地域の開校支援委員会に出させていただき、本当によかったと思っています。この後も、よい方向に持って行きたいと思っています。

(松田委員長)

最後にこの際、何かありましたら、お願いします。

ないようですので、これで平成26年度第7回教育委員会会議を閉会します。

お疲れ様でした。

平成26年度第7回大分県教育委員会会議次第

日時 平成26年7月8日（火）

14:05～15:15

場所 教育委員室

1 開 会

2 署名委員の指名

3 議 題

（1）報 告

- ①平成26年度大分県学力定着状況調査の結果について
- ②全国学力・学習状況調査の結果公表の同意に係る市町村の回答状況について
- ③「韓国平和の旅」及び「北朝鮮への渡航」について
- ④重要文化財の所在確認調査について

（2）協 議

- ①別府地域及び玖珠地域新設高校の校名候補について

（3）その他

4 閉 会

平成26年度 大分県学力定着状況調査結果 速報

I 調査の概要

大分県教育庁 義務教育課

1 調査期日 平成26年4月15日(火)

2 調査を実施した児童・生徒数(学校数) ※ 国県私立校を含む全校

小学校5年生 10,066人(281校)

中学校2年生 10,129人(134校)

3 調査方法 全国学力・学習状況調査にあわせ「知識」と「活用」をそれぞれの教科で問う。

II 結果の概要

【教科別偏差値平均(市町村立学校のみ)】

	小学校5年生						全ての教科において 偏差値50を超えた市町村立学校	
	国語		算数		理科			
	知識	活用	知識	活用	知識	活用		
H26	51.4	52.2	52.0	51.9	52.0	51.3	133校/275校	48.4%
H25	51.4	50.2	52.0	51.7	50.9	50.7	80校/277校	28.9%

	中学校2年生								全ての教科において 偏差値50を超えた市町村立学校	
	国語		数学		理科		英語			
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用		
H26	50.6	50.5	51.3	50.5	52.7	51.5	50.3	50.3	38校/127校	29.9%
H25	50.5	49.9	50.8	50.3	50.2	49.7	48.9	49.5	32校/127校	25.2%

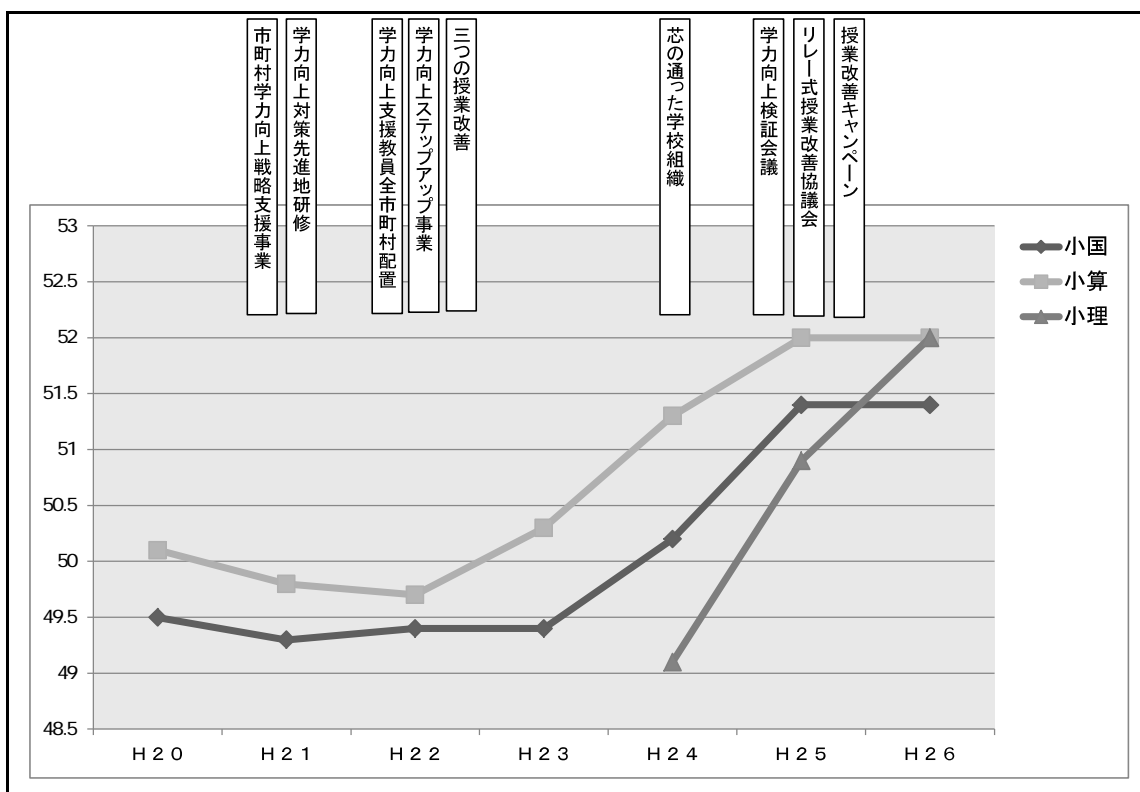
小・中学校ともに全ての教科ではじめて偏差値50を超えた。

平成26年度 大分県学力定着状況調査市町村別偏差値平均一覽

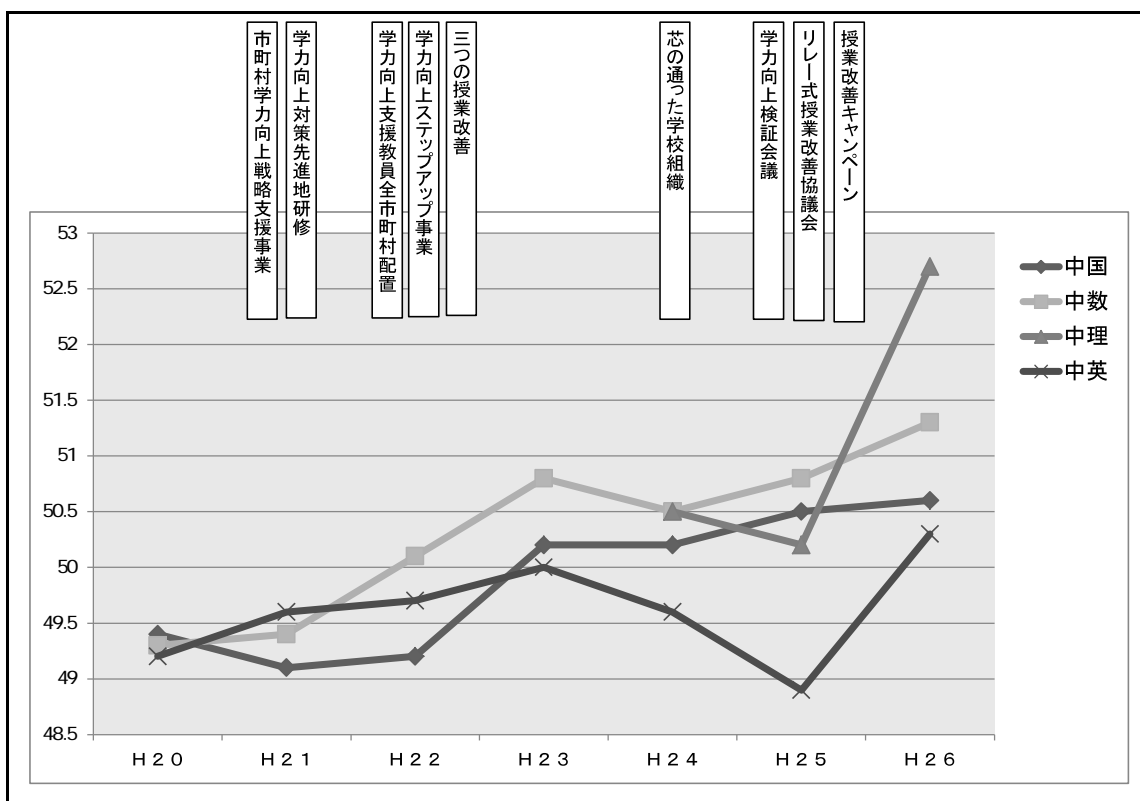
義務教育課

市町村	小学校						中学校							
	国語		算数		理科		国語		数学		理科		英語	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
中津市	50.9	51.5	51.7	50.9	50.6	50.3	50.4	49.5	50.9	50.0	53.0	51.7	49.3	49.8
豊後高田市	52.3	53.0	53.1	52.2	54.4	54.2	52.1	51.2	53.5	51.2	53.9	51.7	51.2	51.7
宇佐市	53.1	53.8	53.2	52.7	53.8	53.1	52.0	51.5	51.9	50.7	53.3	52.0	51.6	52.2
別府市	51.3	51.7	51.3	50.7	52.9	51.8	50.2	50.7	51.0	50.4	52.5	52.2	49.8	49.7
杵築市	50.9	52.8	53.1	53.1	53.2	53.0	50.2	50.4	51.6	50.8	54.2	51.5	49.5	50.7
国東市	53.2	54.4	51.7	50.6	53.2	52.4	50.0	51.0	52.5	51.5	53.7	51.1	49.6	49.1
姫島村														
日出町	52.1	52.9	53.3	52.8	52.3	51.4	52.4	51.8	52.0	52.0	53.9	51.5	51.7	51.1
大分市	51.3	52.2	52.0	52.4	52.0	51.3	50.6	50.3	51.0	50.6	52.6	51.5	50.9	50.6
臼杵市	51.0	53.2	52.0	52.0	52.7	51.6	50.5	51.6	51.8	50.4	53.7	52.1	49.9	49.9
津久見市	49.7	49.2	49.1	49.3	47.6	48.0	49.0	48.6	48.2	49.1	51.6	48.6	51.8	51.8
由布市	50.7	52.0	50.8	50.5	48.8	49.3	50.4	49.1	53.7	51.9	50.9	50.1	50.0	49.8
佐伯市	50.8	50.6	51.3	51.5	51.3	50.3	51.0	50.5	51.5	50.8	52.8	51.4	50.3	49.3
竹田市	50.9	52.2	53.4	51.2	51.3	52.7	50.8	50.6	52.8	50.4	53.7	52.7	50.4	50.4
豊後大野市	49.5	50.0	51.2	50.3	49.9	50.3	49.3	50.4	49.5	49.1	50.3	49.7	46.9	47.0
日田市	52.6	52.9	52.5	51.9	53.0	51.4	50.2	51.1	50.9	49.2	52.1	51.4	48.9	50.3
玖珠町	51.9	52.0	55.2	52.8	52.7	52.4	48.9	50.4	52.8	50.8	51.9	50.7	48.7	48.0
九重町	54.0	56.2	54.2	55.4	53.3	52.5								
大分県	51.4	52.2	52.0	51.9	52.0	51.3	50.6	50.5	51.3	50.5	52.7	51.5	50.3	50.3

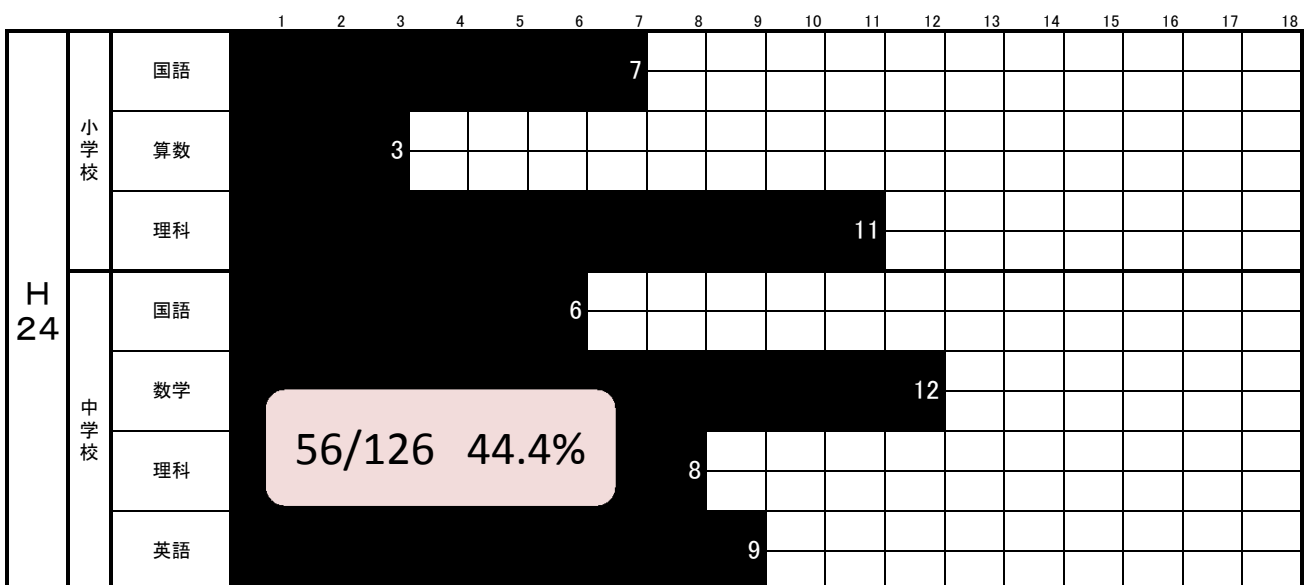
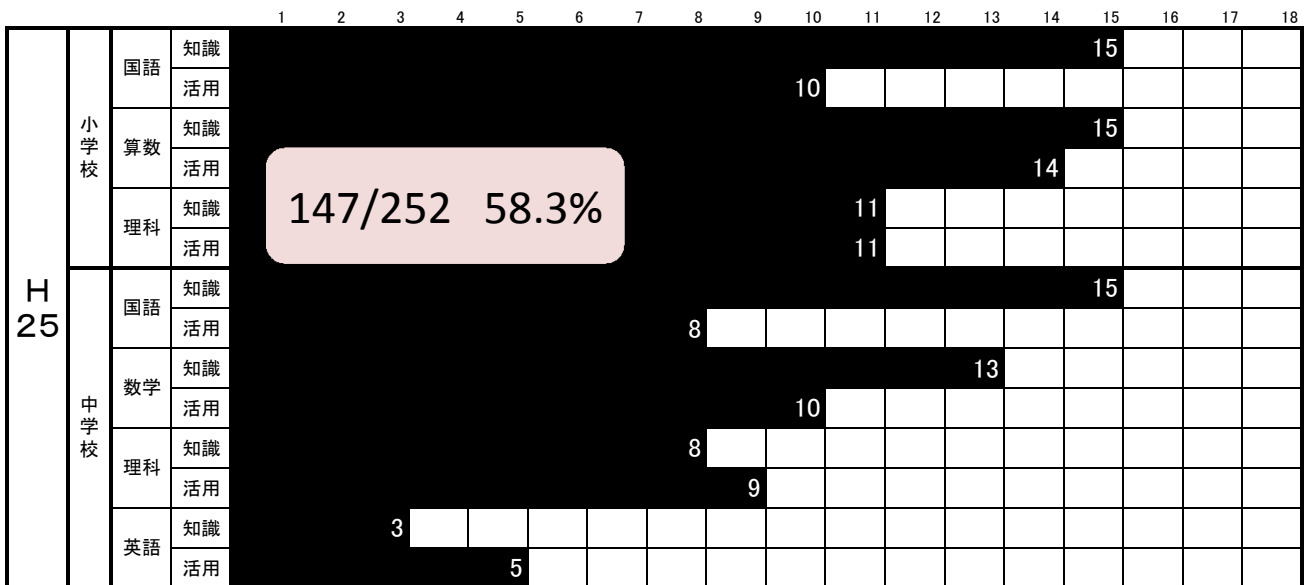
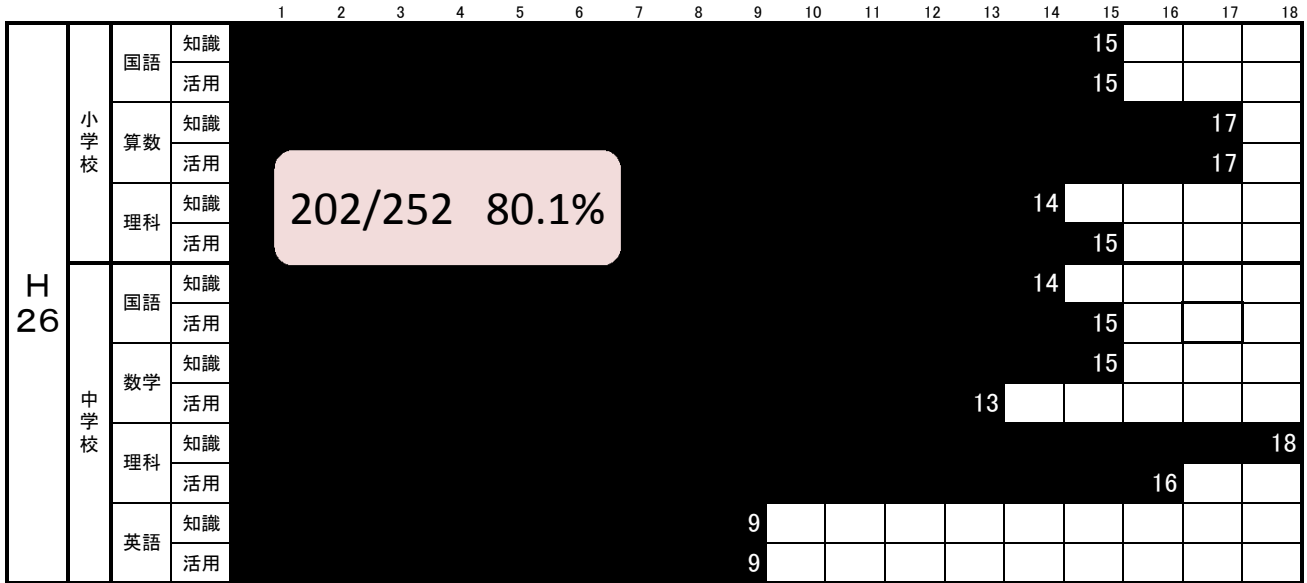
小学校5年生偏差値平均の推移(H20~H26)



中学校2年生偏差値平均の推移(H20~H26)



県学力調査で偏差値50を突破した市町村数の推移



全国学力・学習状況調査の結果公表の同意に係る市町村の回答状況

義務教育課

市町村名	市町村教育委員会 調査結果の公表	基準を満たした学校名等の公表	
		大中小規模校	極小規模校
中津市	○	○	
豊後高田市	○	○	○
宇佐市	○	○	
別府市	○	○	
杵築市	○	○	○
姫島村		○	
国東市	○	○	
日出町	○	○	
大分市	○	○	
臼杵市	○	○	
津久見市	○	○	
由布市	○	○	
佐伯市	○	○	○
竹田市	○	○	
豊後大野市	○	○	○
日田市	○	○	○
九重町	小学校のみ○	小学校のみ○	
玖珠町	○	○	



参加者募集

親子で学ぶ 韓国平和の旅

7月25日(金)~27日(日)

韓国の中学校での交流や韓国の日本軍「慰安婦」歴史館・反日運動家らの監獄として使用された「西大門刑務所跡」などを見学

大分県内の中学生と保護者を対象に県教組が実施

参加費

親子1組(2人)2万5千円で30組を募集!

▲応募者多数の場合は抽選

応募締切

5月16日(金)

●2回の事前学習会あり

※応募により得た個人情報は抽選以外には使用致しません。※抽選の場合はご本人に通知致します。

最少旅行人員/80名(食事回数/昼2回・夜2回) 添乗員/大分空港出発より大分空港到着まで同行、ソウルにて(現地ガイドと合流) 利用航空会社/大韓航空(エコノミークラス) 利用ホテル/ルネッサンスソウルホテル(ソウル) 食事費主催/大分県教職員組合 旅行主催/大分航空トラベル(大分市東広町 1-1-1B ニッセイ大分駅前ビル) 観光庁長官登録旅行業 第1549号第1種
※詳しい旅行条件を説明した書面をお渡し致しますので事前にご確認ください。



お問い合わせ・お申込み

大分県教職員組合 ☎097-556-5617

受付時間/月~金 9:30~16:30
大分市大字下郡496の38 教育会館内

教職員の北朝鮮への海外旅行の状況

教育人事課

○県立学校

	H22	H23	H24	H25
北朝鮮	2	0	0	3
海外渡航者数	329	331	274	255

※ H25は、ALT（外国語指導助手）3人が渡航

※ 「韓国平和の旅」参加者はなし。

○市町村立学校

	H22	H23	H24	H25
北朝鮮	18	0	21	0
海外渡航者数	523	574	636	497

※ 「韓国平和の旅」参加者

	H22	H23	H24	H25
	4	4	4	4

重要文化財（美術工芸品）の所在確認調査について

平成26年 7月 7日
教育庁文化課

1 調査趣旨

平成25年11月に、マスコミによる国重要文化財（美術工芸品）の所在不明の報道を受け、文化庁が各都道府県に依頼して一斉調査を実施。

2 調査期間

平成26年1月～3月

3 調査方法

- (1) 県文化課有形文化財担当及び各市町村担当者が物件の保管場所等へ赴く
- (2) 現物を確認して写真に記録、収蔵状況等の確認
- (3) 3月末 文化庁へ報告

※文化庁は全国の調査結果精査の後に公表

7月5日（土）新聞資料（別紙）

4 調査結果（大分県分）

- | | |
|-------------------|---|
| (1) 対象物件数 | 計54件 |
| (2) 所在が確認できなかったもの | 計 1件 |
| ①物件 | 「刀〈 <small>むめいよしひろ</small> 無銘義弘（ <small>めいぶつぜんごう</small> 名物豊前江）〉」 昭和31年指定 |
| ②対応者 | 所有者の家族（所有者とされた人物は死亡） |
| ③聞き取り | 刀のことは一切知らされていない |

5 大分県の対応

今回の文化庁の公表を受け、大分県指定有形文化財（美術工芸品）について、所在確認調査を実施する。

- (1) 県文化財保護審議会での協議
調査方法、スケジュール
- (2) 調査結果、所有者への今後の管理依頼のあり方等を教育委員会に報告
※調査に際しては、個人の財産権やプライバシーに配慮

重文、県内の1件「不明」

文化庁は4日、国の重要文化財指定を受けた美術工芸品のうち、国宝の刀剣1件を含む27都府県の109件が所在不明になっているとの調査結果を発表した。33件は盗難で、所有者の転居や死亡で所在が分からなくなっている事例も多かった。

このほか確認作業を終えていない重文が238件(うち国宝12件)あり、8月までに調査するとしている。文化庁は「件数の多さを重く受け止める」として、不明となっている文化財の追跡や海外流出の阻止、再発防止に取り組む。

109件のうち59件は工芸品で、刀剣が52件と大部分を占めた。所在不明の国宝は短刀の「銘国光」で、所有していた東京都の男性が約20年前に死亡し、遺族も行方を把握していなかった。不明重文の9割以上が個人または社寺所有だった。

文化庁によると、国の重文に指定された美術工芸品は1万5244件(うち国宝871件)。昨春秋、所在不明のものが多数あることが報道され、初めて全国的な実態調査を進めていた。

指定後の把握困難

県内では国の重要文化財指定を受けた美術工芸品54件のうち、約650年前の南北朝時代に造られた個人所有の刀1本の所在が分からなくなっていることが判明した。所有者は既に亡くなっており、追跡は難しい状態。県教委は県有形文化財に指定した美術工芸品の所在をこれまで確認しておらず、調査を始める方針を示した。



県指定有形文化財の所在を確認する方針を示した県教委が入る県庁別館＝4日

文化庁の依頼を受け、県教委が1～3月に調査した。所在が分からない刀は越中(現富山県)の刀工・江義弘が造ったもの。1956年に国の重要文化財に指定された。

指定時は県外にあったことが確認されているが、県内に持ち込まれた理由やルートは分かっていない。県教委が亡くなった所有者の家族「県内在住」にも聞き取りをしたが、刀のことは知らなかったという。

文化財保護法では文化財の管理責任は所有者に定められている。だが貴重な文化財を保護して残すためにも、指定後も行政が文化財の状態を把握しておくことは欠かせない。今回の調査ではそれが十分に機能していない実態が浮かんた。

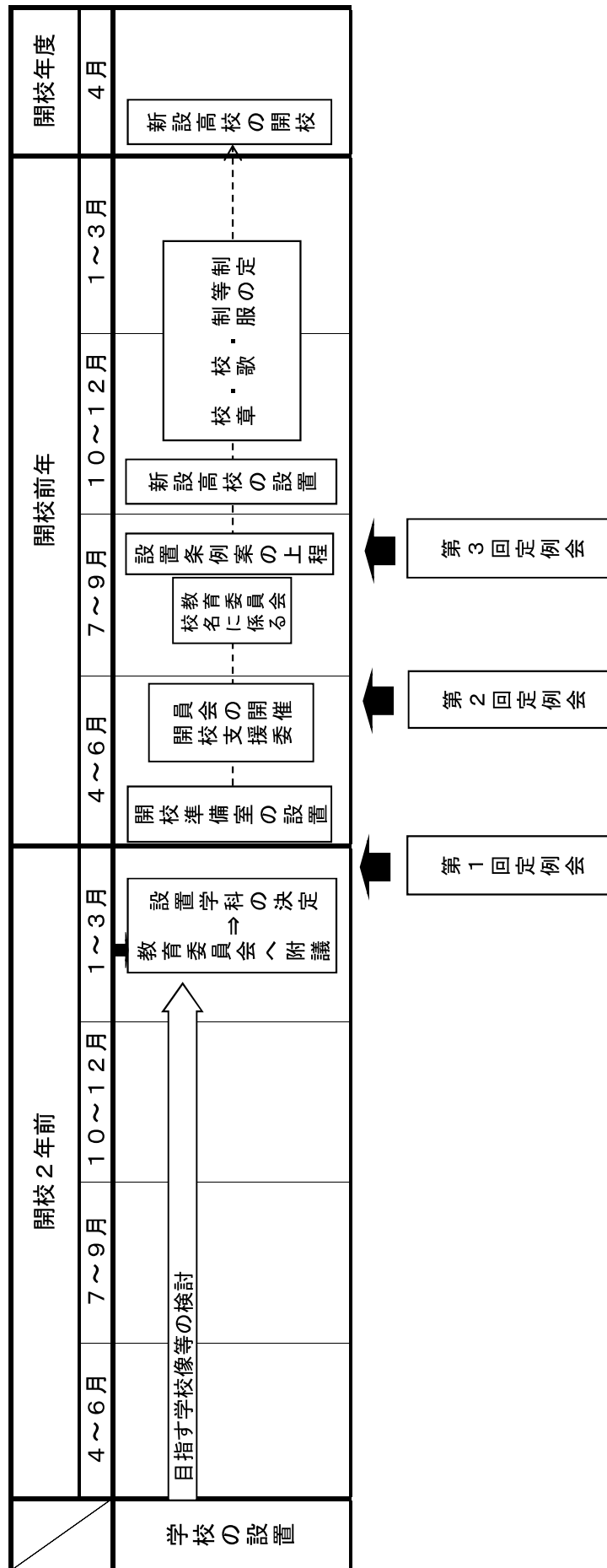
県教委は有識者らによる文化財パトロールで建造物や史跡などのチェックはしてきたが、美術工芸品は「所有者の大半が個人や民間法人など。なかなか踏み込んで調べることはできなかった」と釈明する。

県指定有形文化財の美術工芸品は261件あり、県教委は今後、文化庁の再発防止の取り組みを参考にしながら所在確認を進める予定。山口博文文化課長は「定期的にチェックする方針も考えたい」と話した。

(渡辺大祐)

県有形文化財も調査へ

新設高校の開校に向けたスケジュール



新設高校の開校に向けての準備状況について

平成 26 年 4 月 21 日

高 校 教 育 課

1 平成 27 年 4 月開校予定の新設高等学校

	別府地域新設高校	玖珠地域新設高校
学 校 構 想 等	<ul style="list-style-type: none"> ・別府青山高校、別府羽室台高校、別府商業高校を発展的に統合（段階的統合） ・単位制高校の特色を活かし、地域に学び、主体的に考え、行動できる能力を備えた、グローバルな人材を育成する学校 ・普通科（4学級）、商業科（3学級）、グローバルコミュニケーション科（1学級） 	<ul style="list-style-type: none"> ・森高校、玖珠農業高校を発展的に統合（一括統合） ・総合選択制高校としての特長を最大限に発揮し、進路希望の達成と郷土や地域社会を担う人材を育成する学校 ・普通科（3学級）、地域産業科（1学級）

2 校名候補決定の考え方

地域の人々から親しまれ、特色・魅力・活力ある学校づくりを行うため、以下の視点を総合的に評価し、県教育委員会で決定する。

- ・公募による投票状況を踏まえた校名であること
- ・新しい学校の学校構想にふさわしい校名であること
- ・響きや文字から夢や希望のある高校生活をイメージできる校名であること
- ・地域の人々から親しまれ、愛される校名であること

3 校名候補決定までの流れ

① 公募

上記視点による校名案を全国から公募する。

- 募集形態 全国公募（郵送、FAX、メール等で募集）
- 周知方法 ホームページ、ポスター、市報等
- 募集期間 平成26年4月28日（月）～ 5月31日（土）

② 意見聴取・選抜

開校準備委員会、開校支援委員会を開催し、地域の事情、地域住民の思い等を聴取するとともに、校名の候補案を選抜する。

- 開催時 平成26年6月中
- 開校準備委員会 統合校の校長、開校準備室長・主幹で構成した開校準備委員会により全国公募の中から、10点程度選抜する。
- 開校支援委員会 地元の行政・教育関係者、統合校関係者等で構成した開校支援委員会により、2～3点選抜し、校名の候補として県教育委員会に推薦する。
なお、開校支援委員会には県教育委員も出席する。

③ 決定

県教育委員会において、校名候補を決定する。

- 教育委員会 平成26年7月中
- 決 定 教育委員会に開校準備室長が出席し、開校準備委員会・開校支援委員会での選抜状況等を説明した後、教育委員会で決定する。

玖珠地域新設高校の校名候補について

玖珠地域新設高校開校準備室

1	会議名	第1回新設高校開校支援委員会
2	日時	平成26年6月16日(月) 15:00 ~ 17:00
3	会場	玖珠農業高等学校 会議室

新設高校開校支援委員会で、以下の3案が候補に挙げられた。

候補名	主な推薦理由
くすみやま 玖珠美山	<ul style="list-style-type: none"> ・ 玖珠・九重を代表する伐採山、万年山やミヤマキリシマの美しさなど自然の豊かさを表し、その中で生徒が伸び伸びと成長する学校をイメージできる。 ・ 「美山」という文字と音の響きが明るくしかも爽やかで、中高校生や地域の方から長く親しまれる。
くす 玖珠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新設高校は玖珠郡唯一の高校となるため、地元を代表した高校名として、この地域で生まれ育ったことを誇りに思える学校をイメージできる。 ・ 応募総数の中で一番多い応募があったことから、将来にわたってこの地域で生活する方々に長く親しまれる。
くすみらい 玖珠未来	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未来ということばの響きから、将来にわたり新設高校の伸びゆく可能性を期待できることから、夢と希望溢れる学校をイメージできる。 ・ 生徒一人ひとりの未来に責任を持ち、地域の未来を担う生徒を育成していくという新設高校の基本構想に沿っている。

第1回新設高校開校支援委員会資料（抜粋）

1. 募集・集計・選考について

募集	募集期間：4月28日(月)～5月31日(土) 広報：町報、全戸配布、報道各社(新聞・テレビ)、県教委HP、玖珠町・九重町全小中学校(23校)、日田市・由布市中学校(13校)、玖珠郡・日市内県立高校(5校) 募集ポスター掲示(玖珠町・九重町・日田市・由布市の役所、駅、郵便局、病院、銀行、スーパー、公共施設など119箇所) (玖珠町企業、商店など80箇所)
集計	応募総数 2,573件 (応募点数 924案)
今後の流れ	6月11日 第3回新設高校開校準備委員会にて第一次作業として924案より14案を選抜。第二次作業として14案より9案を選抜。 6月16日 第1回新設高校開校支援委員会にて9案から2～3案を選抜し教育委員会へ推薦。 7月中 県教育委員会において校名候補を決定。 9月 県立学校設置条例の一部改正議案提出。 10月 新設高校設置。

2. 玖珠地域新設高校校名候補募集最終結果

応募方法	件数	応募者種別	件数	順位	校名候補	票数
回収	1,955	玖珠農業高校	106	1	玖珠	392
郵送	374	森高校	276	2	森	338
持参	34	日田高校	47	3	玖珠森	164
FAX	169	日田林工高校	31	4	玖珠総合	116
メール	41	日田三隈高校	415	5	玖珠の森	52
合計	2,573	森中学校	97	6	森玖珠	38
		日出生中学校	4	7	玖珠中央	27
		玖珠中学校	54			
		北山田中学校	60			
		八幡中学校	28			
		古後中学校	7			
		ここのえ緑陽中学校	211			
		他中学校	402			
		森中央小学校	13			
		塚脇小学校	62			
		春日小学校	1			
		北山田小学校	7			
		八幡小学校	4			
		古後小学校	3			
		東飯田小学校	49			
		野矢小学校	3			
		飯田小学校	2			
		南山田小学校	4			
		児童生徒を除く学校関係者	319			
		一般・無記名	368			
		合計	2,573			

校名候補	票数
豊後森	21
玖珠未来	3
玖珠新緑	1
玖珠共栄	1
くす太陽	1
玖珠新生	1
玖珠美山	1

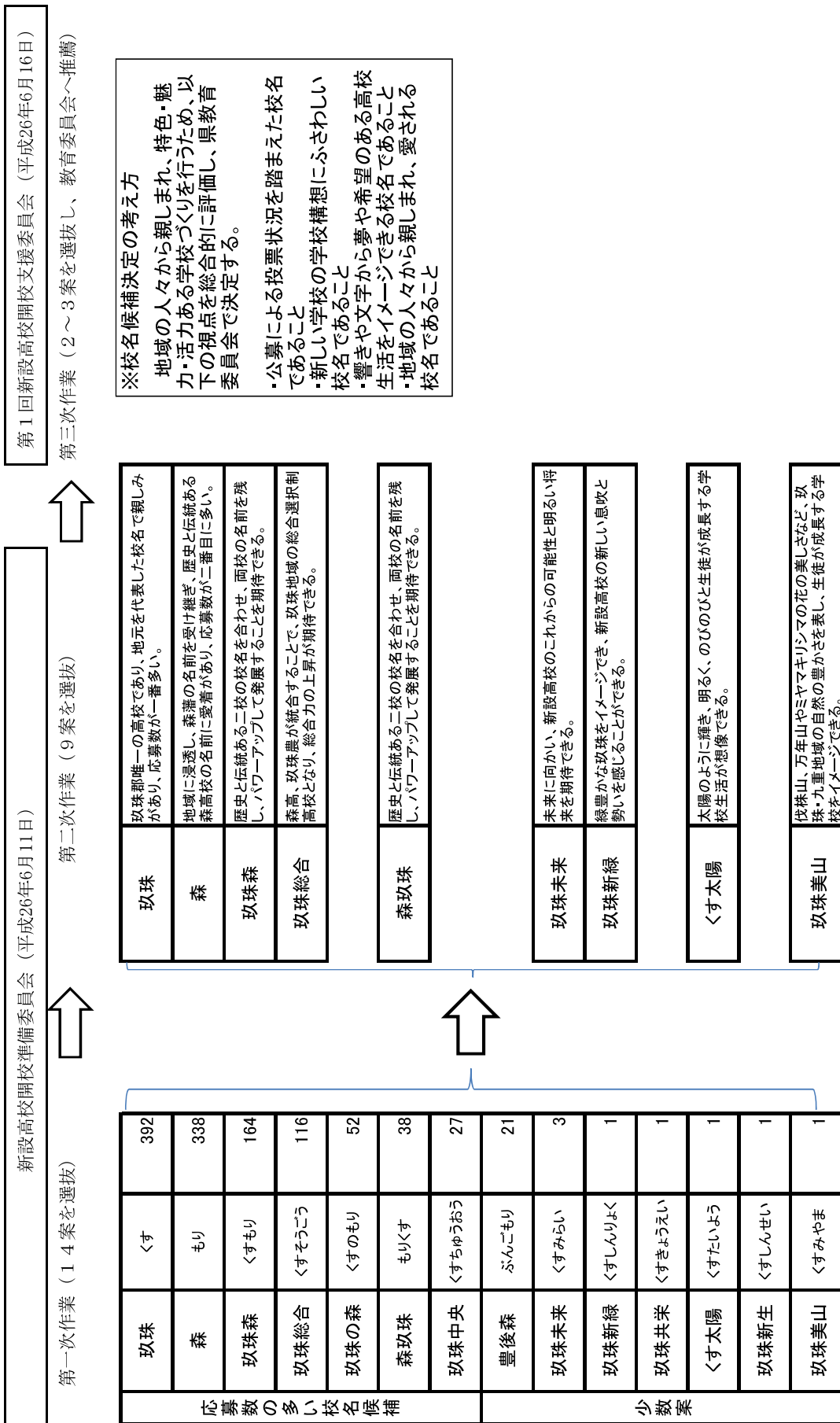
少数意見で推薦できる校名候補

3. 応募数の多い校名候補の状況

順位	全体 応募総数		内 訳												863 総数に 占める 割合 (%)
	校名 候補	応募数	2,573 総数に 占める 割合 (%)			368 総数に 占める 割合 (%)			875 総数に 占める 割合 (%)			中学生 応募数			
			順位	校名 候補	応募数	順位	校名 候補	応募数	順位	校名 候補	応募数	順位	校名 候補	応募数	
1	玖珠	392	15.24	1	森	198	53.80	1	玖珠	177	20.23	1	玖珠	152	17.61
2	森	338	13.14	2	玖珠	18	4.89	2	玖珠森	72	8.23	2	玖珠森	57	6.60
3	玖珠森	164	6.37	3	玖珠森	15	4.08	3	森	58	6.63	3	玖珠総合	29	3.36
4	玖珠総合	116	4.51	4	玖珠の森	8	2.17	4	玖珠の森	28	3.20	4	森玖珠	17	1.97
5	玖珠の森	52	2.02	5	玖珠中央	6	1.63	5	森玖珠	21	2.40	5	森	16	1.85
6	森玖珠	38	1.48	6	玖珠総合	3	0.82	6	玖珠総合	6	0.69	6	玖珠の森	8	0.93
7	玖珠中央	27	1.05	7	森玖珠	0	0.00	7	玖珠中央	6	0.69	7	玖珠中央	8	0.93
	合計	1,127	43.80		合計	248	67.39		合計	368	42.06		合計	287	33.26

4. 校名候補の選定の過程について

応募総数 2,573 校名種類 924



玖珠地域新設高校開校支援委員会における校名候補の選抜について

H26. 6. 16

1 玖珠地域新設高校開校準備室長説明内容

- ・応募総数 2, 5 7 3、校名候補案 9 2 4 種類（内 1 票の案が 7 4 6 種類）
- ・高校生・中学生は地元の玖珠郡の学校だからという理由で「玖珠」が 1 番だった。
- ・「森」は、森高校同窓生から、「森」の名前を残してほしいという要望が多かった。
- ・「玖珠」の文字が入っている校名候補は応募数の約半数(48.5%)だった。
- ・新設高校開校準備委員会で、応募数の多かった案と少数だが「校名候補決定の考え方」に該当すると考えた案の中から 9 案を選抜した。

2 新設高校開校支援委員会協議内容

①協議の経緯

- ・新設高校開校準備委員会で選抜した 9 案の中から 2～3 案を選抜することを確認し、協議を行った。
- ・県教育委員会へ推薦する校名候補案の最終的な決め方については、全委員が意見を述べたのち投票することとした。
- ・投票結果の上位から 3 案を県教育委員会に推薦することに決定した。

②校名候補推薦にかかる主な意見

- ・9 案のうち応募数の多いものから選ぶのがよい。
- ・玖珠郡一校の高校であるから「玖珠」がよい。
- ・「校名候補の考え方」を踏まえ、応募が 1 票の候補の中にも新設高校の学校構想のイメージにあった校名がある。少数案も大切にしたい。
- ・新しい名前を決めることもよいが、伝統の力も大切である。「森」の名前を残したい。
- ・同窓会が支援しやすく、過去の伝統と未来のため「森」「玖珠」という言葉を残したい。
- ・生まれ変わるといことで「玖珠」「森」という現在の学校名を候補から外すかどうか議論してほしい。
- ・玖珠九重の大自然を表現しており、のびのびと高校生活が送れるようにという意味で「玖珠美山」がよい。
- ・玖珠を「くす」と読まれない恐れもあるので、平仮名にすることを考えてはどうか。
- ・子どもたちの明るい未来のため「玖珠未来」がよい。

③結果（委員 1 人 3 案投票 : 5 7 票、白票 3 票）

玖珠美山	1 4	玖珠	1 2	玖珠未来	1 0	玖珠森	9	玖珠総合	6
森	3	くす太陽	2	森玖珠	1	玖珠新緑	0		

※「玖珠美山」「玖珠」「玖珠未来」を県教育委員会に推薦することを確認

別府地域新設高校の校名候補について

1	会議名	第1回新設高校開校支援委員会
2	日時	平成26年6月23日(月) 13:30~15:00
3	会場	別府青山高等学校 会議室

新設高校開校支援委員会で、以下の3案が候補に挙げられた。

候補名	主な推薦理由
べっぶしやうせい 別府翔青	<ul style="list-style-type: none"> 「翔」は別府羽室台の「羽」が入り、同校の同窓会を「翔風会」という。別府商業の「商」と同じ読みになる。また、「青」は別府青山の文字も入り、3校に関係する校名候補である。 青年が世界に羽ばたくイメージがあり、学校構想のグローバル人材の育成につながる。
べっぶそうごう 別府総合	<ul style="list-style-type: none"> 全体応募総数が最も多く、中学生・高校生からの応募も一番多い校名候補である。 3校が統合し、普通科・商業科・グローバルコミュニケーション科の3つの学科が併設する高校になる。
べっぶきぼうがおか 別府希望ヶ丘	<ul style="list-style-type: none"> これまで大分県にはなく、統合する3校の校名にも関係がないことから、新しい学校をつくることに印象付けられる校名候補である。 新設高校の生徒に、未来に向かって希望に燃えて明るく前向きに活躍してほしいという願いがこめられている。

第1回新設高校開校支援委員会資料（抜粋）

（１）募集・集計・選考

募 集	募集期間… 4月28日（月）～5月31日（土） 広 報…市報、ケーブルテレビ、報道各社（新聞・テレビ）、県教委HP 別府市・日出町全中学校（12校）、別府市内高校（5校） 募集ポスター掲示（駅、銀行、スーパー、スポーツ施設、役所、 公共施設など50箇所）
集 計	応募総数 2,444件（応募点数 758案）
選 考	6月12日 新設高校開校準備委員会にて、 第一次作業として応募数の多い校名8案を選抜。 第二次作業として少数案から10案を選抜し、上記8案に加えて18案を選抜。 第三次作業として18案より9案を選抜。 6月23日 第1回新設高校開校支援委員会にて9案から2～3案を選抜し 教育委員会へ推薦。 7月29日 県教育委員会において校名候補を決定。 9月 県立学校設置条例の一部改正議案提出。 10月 新設高校設置。

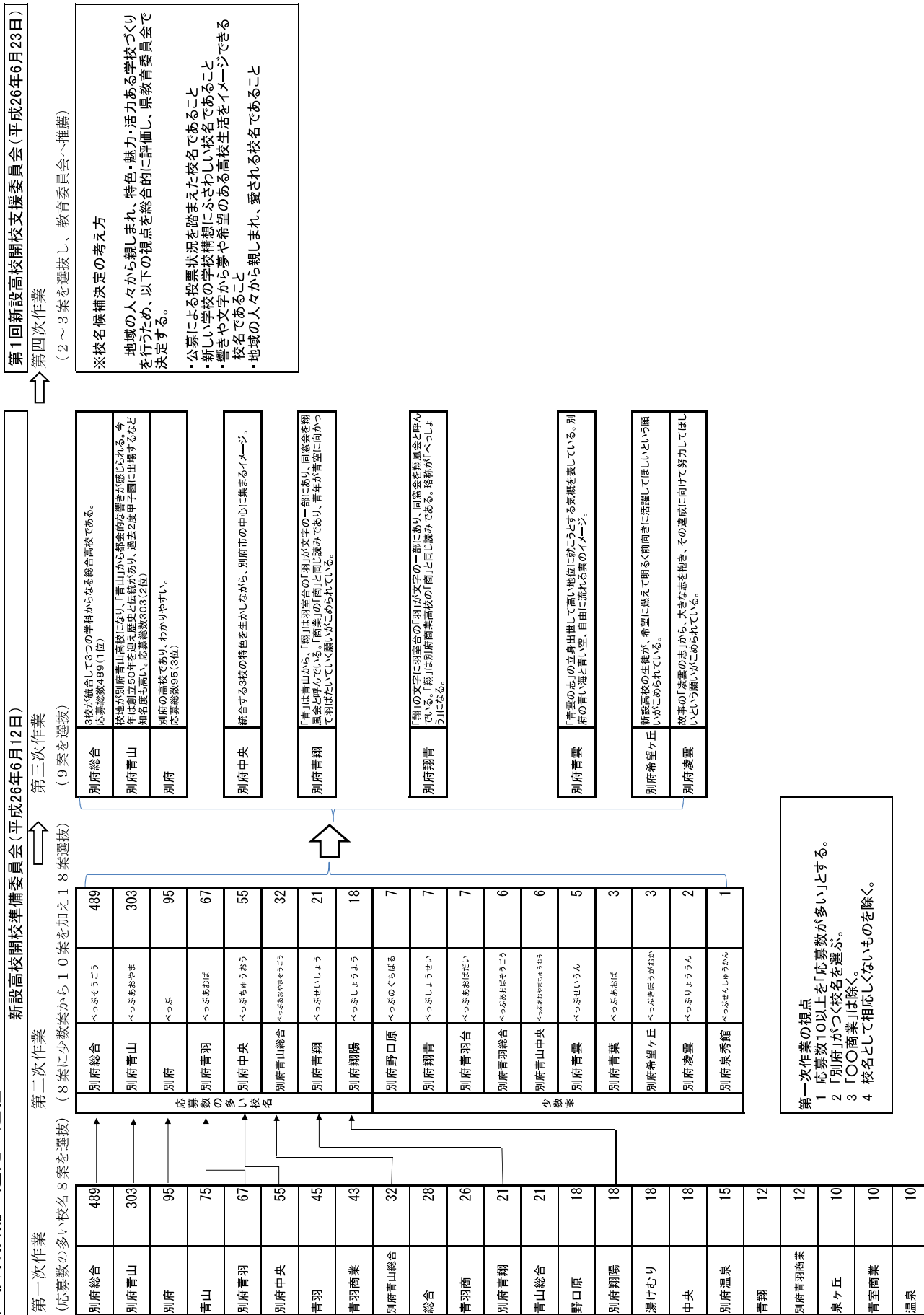
（２）校名候補案最終応募状況

地域	応募数
県 内	2260
別府市	(1511)
日出町	(592)
別府市・日出町以外	(157)
県 外	105
未 記 入	79
合 計	2444

応募方法	応募数
郵送	119
メール	166
FAX	154
回収	1775
持参	230
合 計	2444

応募者種別		応募数
一 般		533
高 校	別府青山高	169
	別府羽室台高	62
	別府商業高	120
	別府鶴見丘高	216
	別府溝部学園高	42
中 学 校	山の手中	133
	青山中	67
	中部中	35
	浜脇中	10
	北部中	32
	朝日中	142
	東山小中	10
	鶴見台中	315
	日出中	476
	南端中	1
	大神中	81
合 計		2444

(3) 校名候補の選定の過程



(4) 応募者種別の応募状況

順位	全体応募総数		内 訳															
	校名候補案	応募数	2444		一般応募数			533			高校生応募数			中学生応募数			1302	
			総数に占める割合	順位	校名候補案	応募数	総数に占める割合	順位	校名候補案	応募数	総数に占める割合	順位	校名候補案	応募数	総数に占める割合	順位	校名候補案	応募数
1	別府総合	489	20.0%	1	別府青山	274	51.4%	1	別府総合	165	27.1%	1	別府総合	318	24.4%			
2	別府青山	303	12.4%	2	別府青山総合	13	2.4%	2	別府青羽	24	3.9%	2	別府	63	4.8%			
3	別府	95	3.9%	3	別府青翔	9	1.7%	2	別府	24	3.9%	3	別府青羽	36	2.8%			
4	別府青羽	67	2.7%	4	別府	8	1.5%	4	別府青山	20	3.3%	4	別府中央	32	2.5%			
5	別府中央	55	2.3%	5	別府青羽	7	1.3%	5	別府中央	18	3.0%	5	別府青山総合	11	0.8%			
6	別府青山総合	32	1.3%	6	別府総合	6	1.1%	6	別府翔陽	17	2.8%	6	別府青山	9	0.7%			
7	別府青翔	21	0.9%	7	別府中央	5	0.9%	7	別府青山総合	8	1.3%	7	別府青翔	5	0.4%			
8	別府翔陽	18	0.7%	8	別府青雲	3	0.6%	8	別府青翔	7	1.1%	8	別府野口原	4	0.3%			
9	別府野口原	7	0.3%	8	別府青羽台	3	0.6%	9	別府青山中央	6	1.0%	8	別府青羽総合	4	0.3%			
9	別府翔青	7	0.3%	8	別府希望ヶ丘	3	0.6%	10	別府翔青	5	0.8%	10	別府青羽台	3	0.2%			
9	別府青羽台	7	0.3%	11	別府翔青	2	0.4%	11	別府野口原	2	0.3%	11	別府青葉	2	0.2%			
12	別府青羽総合	6	0.2%	11	別府凌雲	2	0.4%	12	別府青羽総合	1	0.2%	12	別府青雲	1	0.1%			
12	別府青山中央	6	0.2%	13	別府野口原	1	0.2%	12	別府青雲	1	0.2%							
14	別府青雲	5	0.2%	13	別府翔陽	1	0.2%	12	別府青羽台	1	0.2%							
15	別府青葉	3	0.1%	13	別府青羽総合	1	0.2%											
15	別府希望ヶ丘	3	0.1%	13	別府青葉	1	0.2%											
17	別府凌雲	2	0.1%	13	別府泉秀館	1	0.2%											
18	別府泉秀館	1	0.0%															
	合計	1127	46.1%		合計	340	63.8%		合計	299	49.1%		合計	488	37.5%			

別府地域新設高校開校支援委員会における校名候補の選抜について

H26. 6. 23

1 別府地域新設高校開校準備室長説明内容

- ・応募総数 2, 4 4 4、校名案 7 5 8 種類
- ・一般では「別府青山」、高校生・中学生では「別府総合」が最も多く、全体では「別府総合」、「別府青山」の順に多かった。
- ・中学生の応募では、特に「別府総合」とする校名候補案が多く、中学生の応募 4 8 8 票うち 3 1 8 票であった。（そのうち、日出町内の中学校からの応募が 2 0 5 票であった。）
- ・開校準備委員会で、応募数が 1 0 以上ある校名候補の中から 8 案を選抜し、さらに少数案から校名としてふさわしい 1 0 案を加え、その 1 8 案の中から 9 案に絞った。

2 新設高校開校支援委員会協議内容

①協議の経緯

- ・開校準備委員会で選抜した 9 案の中から 2 ～ 3 案を選抜することを確認。
- ・開校支援委員会では、推薦したい校名候補について協議し、3 案を県教育委員会に推薦することに決定。

②校名候補推薦にかかる主な意見

- ・3 校のいずれかの校名を引き継ぐのではなく、未来への希望が持てる校名の方が良い。
- ・校名候補を除外するのではなく、前向きに推薦できる校名候補を挙げた方が良い。
- ・中学生の「別府総合」の応募数が多いことを考慮した方が良い。
- ・過去「総合」と校名についている学校は、総合学科または総合選択制の高校であり、新設高校は単位制である。
- ・「別府翔青」は、3 校の校名に関係する漢字が使われており、「翔青」は青年が世界に羽ばたいて行くことを表している事から新設校の教育方針でもあるグローバル人材の育成にも合っている。略すと「別翔」になり、別府商業の「ハイスクールマーチ」を引き継ぐことができるので、推薦する。
- ・「別府総合」は、応募総数が 1 位であるので、推薦する。公募したという前提で考えるべきである。
- ・「別府希望ヶ丘」は、3 校とは関係ないが、新しく、前向きな印象を与える校名であるので推薦する。

※「別府翔青」「別府総合」「別府希望ヶ丘」を県教育委員会に推薦することを確認